



安達瞳子さん

有朋自遠方来

5月14日朝、さつきの咲きみだれる大和文華館に美しい来客がありました。その方は安達瞳子さん。京都での講演会をひかえた多忙な時間をさいての御来館でしたが、熱心に展観をごらんになりました。春日山が美しくのぞまれるバルコニーに立った安達さん。すぐ下の池に目をとめられて、
「この池の名は？」「蛙股池って妙な名で……」「あら、そうですね。平泳ぎですね。」
ウィットのある言葉をのこしていけました。



列品解説にききいる人々

華花の競演—いけばなの歴史展

池坊学園の協力による、立華の復興が飾られた会場は、色彩豊かに描かれた花々とともに、春らしいはなやいだ空気に満たされました。会期中には、小原流家元・小原豊雲氏と令嬢、山村御流家元山本静山氏、安達流家元令嬢・安達瞳子氏らをはじめ、華道各流派から大勢御来館。陳

列品のまえて、熱心にノートをとる娘さん達、振袖姿でやってきたグループもあって、会場は若い女性群に圧倒されたかたち。

講演会は、4月23日、中村昌生氏による「茶室と花」5月7日、石田茂作氏の「仏教と花」がそれぞれ行われました。



遠来の客に満ちた秋田蘭画展

会期中、秋田市美術館々長・北島震一氏をはじめとして、研究者、所蔵者など多くの秋田の方や、アメリカ・フィラデルフィア美術館一行、サンフランシスコのデ・ヤング美術館一行など多数の外人も来館されました。東洋と西洋が美しく混在する、気品に満ちた武人画—秋田蘭画に多くの讃辞が与えられ、いろいろな話題を残しました。この展観は今後の日本初期洋画研究に大いなる意義をもつことでしょう。

写真は6月4日の講演「秋田の洋風画」を終え、ポスターの前に立つ、奈良環之助氏。

「美術にみる・いけばなの歴史」図録
「日本洋画のあけぼの・秋田蘭画」図録 各々¥200(〒35)

季刊 美のたより No.2

昭和42年 7月1日

発行 大和文華館